

日本医史学雑誌第四十九巻 総目次

総説

Perspectives on the Evolution of Japanese

Medicine.....Shizu Sakai..... 七五六

原 著

多紀元簡失脚の背景——医学館官立化当初の事情

.....町泉寿郎、小曾戸洋、花輪壽彦..... 二〇五

日本植民地時代における韓国のハンセン病対策の研究

——一つの試論.....魯 紅梅..... 三三三

近代日本におけるマッサージ医療の導入

.....和久田哲司..... 二六三

精神疾患患者・遺伝性疾患患者に対するナチスの

「安楽死」作戦とミュンスタール司教フォン・ガレン

.....泉 彪之助..... 二七七

ガレノス『神経の解剖について』

——ギリシヤ語原典からの翻訳と考察

.....坂井建雄、池田黎太郎、月澤美代子..... 四〇三

太田黒玄淡の阿蘭陀外科免許状とその背景について

.....ヴォルフガング・ミヒェル、杉立義一..... 四五五

昭和二十四年の岩ヶ崎接種結核事件について

——GHQ文書と日本の資料.....渡部 幹夫..... 四七九

眼科リハビリテーションにおける医療と福祉の

統合過程——順天堂大学眼科リハビリテーション
クリニックの活動から.....高林 雅子..... 五二
白居易(楽天) 疾病攷.....小高 修司..... 六二五
研究ノート

解體新書——言語と概念の変容.....岡田 昌信..... 三三
ひろば

昭和二〇年四月歯科医師への医師免許特例措置
.....小関 恒雄..... 三三五

病原体としての「風」の概念.....山田 慶兒..... 三三五
医史学者・思想家 ペドロ・ライン・エントラルゴ

.....泉 彪之助..... 四四五
林洞海・研海——父と子の理念.....望月 洋子..... 四六七

資料
癸亥 春林軒統薬方冊(四)
.....高橋 均、坂田育弘、児玉重隆..... 三三五

フランス人医師が見た明治初期の日本
——私立新潟病院初代外国人医学教師ヴィダルの

旅行記「新潟から江戸へ(日本).....須長 泰一..... 四〇
原典・古典の再発見 「短波治療の基礎」

物理—技術—適応症.....奈良圭之輔、岩井信市
.....横地章生、小口勝司..... 六一

追 悼
富士川英郎氏を悼む.....大滝 紀雄..... 三六九

鹿子木敏範先生を悼む.....岡村 良一..... 五五九

記事

例会抄録

江戸医学館における臨床記録……………町泉寿郎・戸出一郎……………三三
 横浜港瀧卒養生之規則について……………中西 淳朗……………三三
 和漢薬の来歴に関する新史料……………小曾戸 洋……………三七
 医学館年表作成をめざして——基礎資料解説……………町 泉寿郎……………三九
 ……岡田 靖雄……………三八
 断種法史上の人びと(その六)……………深瀬 泰旦……………三四
 江戸幕府寄合医師 添田玄春の医学と医療活動……………杉田 暉道……………三三
 ……戸出 一郎……………三九
 天台大師の医学……………中西淳朗、松本龍二……………三三
 医学館における医学考試について……………中西淳朗、松本龍二……………三三
 西南戦役と神奈川県下の官修墓地……………中西淳朗、松本龍二……………三三

書籍紹介

漢方製剤の医史学補遺……………菊谷 豊彦……………三三
 コレラに対する禁忌食品の時代的変遷……………佐分利保雄……………三三
 中神琴溪引書放……………館野 正美……………三五
 鈴木七美『癒しの歴史人類学』……………瀧澤 利行……………三六
 小高 健 編『長興又郎日記』……………瀧澤 利行……………三七
 石塚久郎・鈴木晃仁 編『身体医文化論』……………月澤美代子……………三九
 岡田靖雄『日本精神科医療史』……………橋本 明……………三九
 新村 拓『痴呆老人の歴史』……………寺畑 喜朔……………三九
 会田秀介『医と石仏・庶民の治病信仰』……………奥沢 康正……………三九
 深瀬泰旦『天然痘根絶史』……………松木 明知……………三五
 日本精神衛生会 編『図説日本の精神保健運動の歩み』……………松木 明知……………三五

榎原悠紀田郎『歯科保健医療小史』……………岡田 靖雄……………三九
 八木剛平・田辺 英『日本精神病治療史』……………新藤 恵久……………三九

松木明知『華岡青洲の新研究』……………高橋 均……………三七
 日和田邦男編『高血圧研究の歴史』……………藤倉 一郎……………三八
 江川義雄『広島県医人伝 第三集』……………原田 康夫……………三九
 青木正和『結核の歴史』……………中村 昭……………三九
 山田慶兒『氣の自然像』……………石田 秀実……………三九
 古西義麿『緒方洪庵と大阪の除痘館』……………中山 沃……………三九
 村松学佑『甲斐国医史』……………荒木 幹雄……………三九
 川上 武編『戦後日本病人史』……………上林 茂暢……………三九
 立川昭二『生と死の美術館』……………新村 拓……………三九
 須磨幸蔵ほか編『世界の心臓学を拓いた田原淳の生涯』……………藤田 尚男……………三九
 遠藤正治『本草学と洋学』……………野尻佳与子……………三九
 酒井シヅ『絵で読む江戸の病と養生』……………立川 昭二……………三九
 呼吸器学百年史編集委員会『呼吸器学百年史』……………吉良 枝郎……………三九

文庫めぐり

温知堂文庫……………真柳 誠……………三三
 千葉大学附属図書館亥鼻分館……………樋口誠太郎……………三三
 医史学文献目録 平成十三年(二〇〇一)年……………順天堂大学医史学研究室編……………一五
 医史学文献目録 平成十四(二〇〇二)年……………順天堂大学医史学研究室編……………一五

第一〇四回 日本医史学会 総会 演題目次

特別講演 (1)

京都帝国大学福岡医科大学から九州帝国大学医科大学
への道のり……………佐藤 裕……………六

特別講演 (2)

伝染病の歴史——疫病から感染症に

……………酒井 シヅ……………二

特別シンポジウム (1)

1 特定領域研究「我が国の科学技術黎明期資料の体系化
に関する調査・研究」(略称「江戸モノづくり」)
についての報告……………酒井 シヅ……………二四

九州大学医学部所蔵キュンストレーキについて
……………月澤美代子・酒井シヅ……………二六

……………ヴォルフガング ミヒエル……………二六

……………橋本龍雲家伝の古医書類……………二六

……………岡田昌春文庫 (一)——書籍類……………二六

……………友部和弘・町泉寿郎……………二六

……………小曾戸洋・花輪壽彦……………二六

……………岡田昌春文庫 (二)——書簡類……………二六

……………町泉寿郎・小曾戸洋・花輪壽彦……………二六

……………室町く江戸時代初期の金瘡書、南蛮流膏薬書、
『春林軒膏方便覧』に見られる軟膏の色……………二六

……………中村輝子・遠藤次郎……………二六

……………江戸時代の金瘡治療における「血」の概念の展開……………二六

——紅毛流外科と気血水論

8 ホーデフリート・ハークと一七世紀の日蘭交流に
おける薬草学について……………遠藤次郎・中村輝子……………二六

特別シンポジウム (II)

1 福岡の蘭学 (医学)……………ヴォルフガング ミヒエル……………二六

2 中津藩蘭学の系譜……………奥村 武……………二六

3 遠隔と近接……………川島 真人……………二六

一般演題……………ヴォルフガング ミヒエル……………二六

1 一二世紀末のクメール文化圏の施療院……………石田 純郎……………二六

2 佐藤剛蔵と近代朝鮮医学教育……………寺畑 喜朔……………二六

3 魯迅のエッセイ『皇漢医学』について……………真柳 誠……………二六

4 朝鮮のハンセン病医療に従事した志賀潔……………魯 紅梅……………二六

……………関根 透……………二六

5 『看病用心抄』の著者について……………計良 吉則……………二六

6 『風土記』の中の身体に関わる表現……………西巻 明彦……………二六

7 薛立斎の排膿に関する概念の考察……………岡田 靖雄……………二六

8 『日本精神科医療史』をかきあげて……………黒澤 嘉幸……………二六

9 第一次世界大戦における陸軍航空医学……………橋本 明……………二六

10 第二次世界大戦以前における日本の精神医療の評判…………………………二六

11	「青洲先生療乳癌図記」について —— 華岡青洲と広瀬屋利兵衛の妻	松木 明知	頁
12	吉益東洞〈親試実験〉の背景としての金瘡 —— 医史学的概観	館野 正美	頁
13	泉屋家文書の外科資料蘭文断簡からわかった 本木正栄の医書		
14	相川忠臣・ハルメン ポイケルス 『黄帝内経明堂類成』と『甲乙経』の比較	木場由衣登	頁
15	『素問』『靈樞』中の「滑」「瀼」について	上田 善信	頁
16	傷寒学を研究する先駆——高若訥	郭 秀梅・加藤久幸	頁
17	江戸期の義眼史	奥沢康正・広瀬 秀	頁
18	順天堂大学眼科リハビリテーションクリニックの 歴史的意義	高林 雅子	頁
19	江戸時代の温泉と梅毒	鈴木 則子	頁
20	中国伝統医学と道教(第二十三回)	五石散	頁
21	『素問攷注』に引用される『解体発蒙』についての 一考察	吉元 昭治	頁
22	唐以前における妊娠の認識について	竹内 尚	頁
23	『脈経』における版本の比較 ——『脈経』版本字句異同調査報告	吉岡 広記	頁
24	『名家灸選』所収の「試効」の灸法にみる施灸数	中川 俊之	頁
25	近世日本鍼灸史における『阿是要穴』の意義	鶴田 泰平	頁
26	『玉葉』の鍼灸	杉浦 雄・篠原孝市	頁
27	『鍼灸拔翠』について	寺川 華奈	頁
28	『東医宝鑑』の研究——鍼灸編について	宮川 隆弘	頁
29	明石為嗣著「X脚之治験」(明治二二年)について 小林 晶・奥村 武	吉田 和裕	頁
30	久保記念館と久保猪之吉先生の思い	曾田 豊二	頁
31	貝原益軒(一六三〇—一七一四)の紹介	木村専太郎	頁
32	貝原益軒の最後の著書『慎思録』について	原 敬二郎	頁
33	明治時代に発行された碩田医報	山之内外一	頁
34	中津藩医山辺文伯と産育編について	石原 力	頁
35	前野良沢(蘭化)の自画像と オランダ馬具について	松尾 信一	頁
36	緒方洪庵と添田玄春 ——西洋医学所頭取役宅の新築をめぐる	深瀬 泰且	頁
37	高野長英の『避疫要法』と看護	平尾真智子	頁
38	安中藩主板倉侯の種痘事業	清水 英一	頁
39	ガレノスとヴェサリウスの解剖学の比較研究(二)		頁

48	先覚的医界ジャーナリスト山谷徳治郎 ……………中山 沃・小田皓二……………	三〇	49	ドイツ人外科医ベルテス(一八六九—一九二七)の 小伝と北清事変中の業績……………蒲原 宏……………	三三
47	『日本杏林要覧』(明治四二年刊)に掲載された 九州八県下の医師・歯科医師人名……………樋口 輝雄……………	三六	50	最古参学校医 船石保太……………小田 皓二……………	三四
46	なぜ日本では「ドナ」を志望する人が少ないのか ……………杉田 暉道……………	三六	51	神奈川県権令・大江卓の養生布告……………中西 淳朗……………	三六
45	協調と対立の構図……………大石 杉乃……………	三四	52	済生学舎出身の医師三木保長の生涯と 東大整形外科教授三木威勇治について……………唐沢 信安……………	三六
44	京都・島根ジフテリア予防接種禍についての ……………京都府記録とGHQ文書……………渡部 幹夫……………	三三	53	愛知の結核医療史補遺……………山田英雄・山内一信・青木国雄……………	四〇
43	GHQによる看護改革の流れ ……………GHQ看護課・課長G.E.Altに対する……………	三三	54	統計と医学的な事実——高木兼寛及び脚気論……………ベイ アレキサンダー・花輪壽彦……………	四〇
42	ガイ病院の創設について……………藤倉 一郎……………	三〇	55	日本における法定伝染病統計の分析……………鈴木 晃仁……………	四四
41	Thomas WillisのCerebri Anatomieについて……………門田 永治……………	二六	56	日本における法定伝染病統計の分析……………市川 智生……………	四四
40	コッホのまな弟子、リディア・ラビノウィッチ・ ケンブナー教授……………泉 彪之助……………	二四	57	日本における法定伝染病統計の分析……………永島 剛……………	四四
39	第三・四対の脳神経を例にとつて……………坂井 建雄……………	二二	58	日本における法定伝染病統計の分析……………平山 勉……………	四六